



ともしぎ運動
ともに生きる開かれた社会づくりをめざして

“KANAGAWA” 福祉タイムズ

2005 **2** No.639

発行日 2005年（平成17年）2月15日
毎月1回15日発行
発行所 〒221-0844 横浜市神奈川区沢渡4-2
社会福祉法人 神奈川県社会福祉協議会
TEL045-311-1423 FAX045-312-6302
<http://www.progress.co.jp/members/jinsyakyo/>
編集発行人 平本邦夫
定価 100円（税・郵送料込）
印刷所 株式会社 神奈川機関紙印刷所
昭和27年1月30日 第三種郵便物認可



「成長が嬉しい」秦野東スポーツ少年団のバレーボールのコーチをする山崎由美子さんと齋木晴奈さん(中央右と左)は、小・中学校時代のバレー部の後輩と先輩。ママさんバレーをしていた時コーチを頼まれたが、始めは一人ひとりの特徴を知るのに苦労したという。「今は技術より“楽しく”と“仲間を作る”ことが一番大切」、「試合で見せる子どもの笑顔がすごくいい。負けた時にはちっちゃい子が悔しさをばろばろ泣くんです。『今度頑張ろうね!』て。いい経験しています」と嬉しそうに笑う。(写真・文 菊地信夫)

あんぐる

平成十六年を一字で表すと「災」であると報じられました。幾度となく上陸した台風による水害、新潟県中越大地震、そしてスマトラ沖地震、まさに災害の一年でした。

四十年前の「新潟地震」。当時、私は佐渡が島に住んでおり中学生でした。地震が起きたのはお昼過ぎで教室の掃除をしている時でした。あわてて箒を持ったまま外に飛び出しましたが、小舟に乗っているような揺れを感じ、怖い思いをしたことを今でも忘れられません。佐渡の被害はさほどありませんでしたが、新潟市内は大きな橋が落ち、鉄筋コンクリートのアパートが四十五度に傾き、石油コンビナートは火の海と化しました。

スマトラ沖地震によるインドネシアのアチェ州の津波で、倒壊した建物や車がゴウゴウと流れる様子をテレビの映像で見た時、鳥肌がたちました。

自然災害は避けることができません。しかし、備えはできます。先日、神戸市で世界の自然災害被害の軽減策や国際協力のあり方などを話し合う「国連防災世界会議」が開かれました。一人ひとりの備え、地域の備え、そして技術を含めた国の備えが重要であると思います。

川崎市社協福祉部長 土屋加代子

目次

評価を通じて望ましいサービス実現を図るために	2・3
県福祉作文コンクール表彰式開催	4
次年度からの「子ども子育て応援プラン」が決定	5
市民参加でIT支援推進を	6
長寿社会開発センターいきいきはつらつ	7
連載・つながりをもとめて(1)	10・11